

「県立高等学校の今後の在り方」についての地方別懇談会 【和歌山市エリア会場】概要

(令和2年10月12日(月) 18:30~20:00 和歌山県民文化会館 小ホール)

- 1 挨拶 和歌山県教育委員会 教育長 宮崎 泉
- 2 説明 和歌山県教育委員会 教育企画監 清水 博行
- 3 質疑

[質疑においていただいたご意見やご質問]

○今後の進め方について

- ・時間がかかっても幅広い意見を聞いて、丁寧に進めてほしい。
- ・今回のような答申の説明も大事だが、具体案が提示されてからの説明も大事である。
- ・再編は、県教委に任せて終わりという話ではない。今日お集りの皆さんが、それぞれのところで「一緒に考えよう」と呼び掛けて、意見や知恵を出しあえたらよいと思う。

○教育の内容、学校の状況について

- ・スポーツだけでなく、音楽や絵画など文化面の推薦入試なども検討してほしい。
- ・学校再編に合わせて新たに施設を建設すれば、おのずと教育の内容も変わると思うがいかがか。
- ・全日制の選択肢が増えるようだが、定通教育の今後についてどのように考えるか。
- ・情緒障害のある生徒が進路実現を果たせるような制度を検討してほしい。
- ・オンライン教育と言われるが、人と人との関わりの中で行われる教育も大事にしてほしい。
- ・専門学科において、地元に残る人材を育ててくれており、感謝している。

○地域の状況等について

- ・和歌山市立和歌山高等学校への影響はあると考えるか。
- ・私立高校との共存については、どのように考えるか。
- ・和歌山市の生徒が、遠方の学校に通わなくても済むように配慮してほしい。

[質疑における県教育委員会の回答及び見解]

多くの方々から示唆に富むご意見や温かいエールを多数いただき、感謝申し上げます。

再編整備は、子供たちのためによりよい学校を残していくということですから、ぜひとも前向きにお考えいただいて、プログラム策定までに皆様方から様々なご意見をいただきたく考えています。グループや団体からの説明の要請にもできるだけ応じますので、ご連絡いただければと思います。

私立高等学校については、和歌山県の公教育を支える重要なパートナーとして切磋琢磨しあえる関係が望ましいと考えており、互いの長所を生かした共存が可能だと考えています。

新型コロナウイルス感染症により注目されたオンラインによる教育については、有効な教育手段であると考えていますが、基本はあくまで対面による授業であると考えています。また、昨今では通信制教育も様変わりしており、オンラインによる通信教育の可能性が広がりつつあると感じています。

個に応じた教育については、その重要性を十分に認識し、教育の在り方によって生徒が何かをあきらめざるをえないということがないよう、教育の充実に取り組んでまいります。

いずれにしても、和歌山の子供を和歌山で育てるという基本理念のもと、学びたいところで学べるようにしていくことが、我々の使命であると感じています。今後は、ひとつの学校の中で多様な生徒が学ぶ学校の在り方が想定されます。そういう学校の中で、生徒が刺激しあって、相互に成長していける環境づくりを追求していきたいと考えています。